

飼料利用も可能なナタネ新品種「きらきら銀河」

福島県農業総合センター作物園芸部 畑作科、会津地域研究所

部門名 普通畑作物－その他－品種

担当者 平山孝・真部武

I 新技術の解説

1 要旨

現在、福島県で多く作付されている無エルシン酸品種である「アサカノナタネ」は、グルコシノレート含量が高く、ミール（絞り粕）の飼料利用ができないうえ、耐寒・耐雪性がやや劣るため、本県の積雪地帯での栽培には不向きである。

農研機構東北農業研究センターにて、ダブルロー品種（エルシン酸を含まず、家畜に有害とされるグルコシノレートも極めて少ないため、食用・飼料用ともに優れる）として新しく開発された「きらきら銀河」は、積雪地帯においても越冬株率が高く、各地域での子実収量も「アサカノナタネ」と同等以上である。食用以外にミールとして多角的利用が可能な本県に適するナタネ品種として普及推進できる。

- (1) 「きらきら銀河」は、成熟期が「アサカノナタネ」より3～6日遅い。会津地域研究所（会津坂下町）における越冬率は94～96%と高い（図1）。倒伏はほとんどなく、子実収量は「アサカノナタネ」と同等～多い（図2）。千粒重は2.6～2.9g前後の小粒である（表1）。

2 期待される効果

- (1) 積雪地帯を含む全県でのナタネ栽培面積の拡大が見込まれる。
- (2) ダブルロー品種であるため、「アサカノナタネ」では不可能であったミールの飼料利用ができる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) 「きらきら銀河」の種子を入手するには、育成者権の利用許諾契約を農研機構と締結して原種生産を行っている生産団体から購入する必要がある。

Ⅱ 具体的データ等

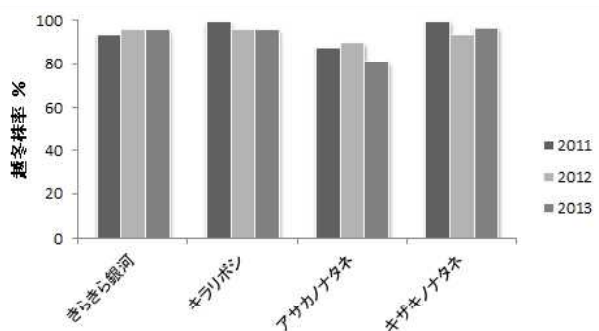


図1 会津研究所(会津坂下町)における
ナタネ各品種の越冬株率(2011~2013年)

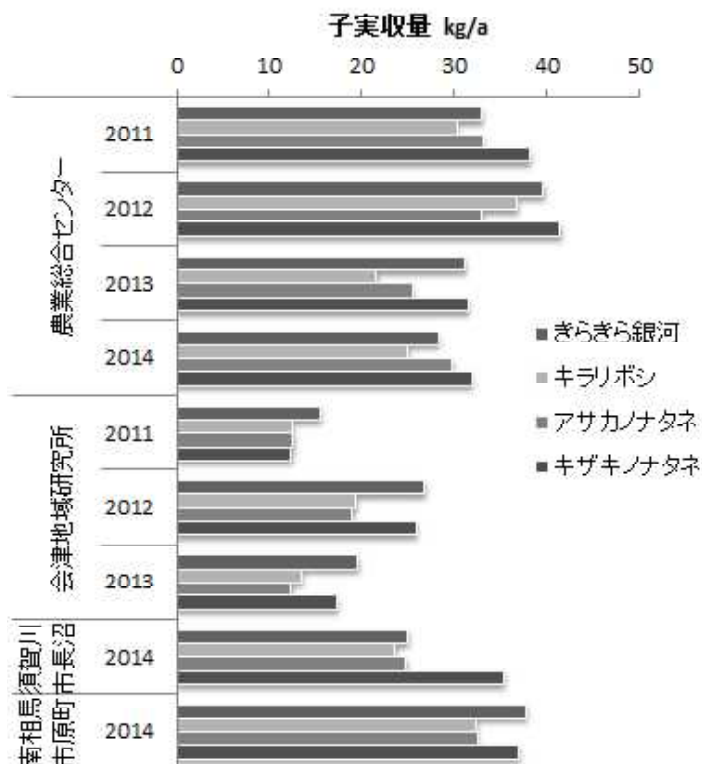


図2 ナタネ各品種の子実収量(2011~2014年)

表1 ナタネ各品種の成熟期・倒伏程度・子実重^{注1}

品種	成熟期 ^{注2}	倒伏程度	千粒重(g)
きらきら銀河(ダブルロー)	+3~6	小	2.6~2.9
キラリボシ(ダブルロー)	+1~4	小	2.9~3.4
アサカノタネ(無エルシン酸)	0	中~大	2.8~3.0
キザキノタネ(無エルシン酸)	+4~6	小	3.4~4.2

注1 農業総合センター(2011~2014年)

注2 アサカノタネに対する日数

Ⅲ その他

1 執筆者

平山孝

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度~26年度
- (2) 研究課題名 ナタネの安定生産技術と飼料利用法の確立(積雪地帯での栽培に適した優良品種の選定)

3 主な参考文献・資料

- (1) プレスリリース『寒冷地向きナタネ新品種「きらきら銀河」』(農研機構、2016年)
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/061188.html